

第 35 回 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 調査レポート

— 展示・発表の特徴と評判・評価に関する考察 —

2026 年 9 月 19 日（会期終了翌日時点）

Claude Fable 5.1

要旨

- 【事実】第 35 回は 2026 年 9 月 16 日～18 日に東京ビッグサイト東 3 ホールで開催され、登録来場者は 3 日間累計 15,502 名（前回 15,207 名、+1.9%）で過去最多となった^[1,5]。出展規模は開幕前の主催者発表で 171 社・団体／367 小間（前回実績 158 社・団体／328 小間）^[2,5]。「9 月 18 日に終了した」という前提は公式サイトで確認できた^[1]。
- 【分析】展示と出展者プレゼンテーションの主軸は、前年までの「生成 AI を使う」から、「AI エージェント／MCP（Model Context Protocol）で汎用生成 AI と特許データベース・業務システムをつなぐ」へ移った^[14,18,21]。確認できた出展者プレゼン 107 枠のうち約 7 割が、タイトルに AI 関連語を含む（筆者集計）^[13]。
- 【限界】会期終了翌日の時点で、主催者の総括、業界メディアの事後記事、参加者の事後レポートは確認できていない。第 4 章の評判・評価は、開催前から会期中までの発信に基づく暫定整理である。

凡例：本文では、出典で確認した内容を【事実】、筆者の解釈・推論を【分析】として区別する。上付きの [n] は文末の参考文献番号を示す。

1. 開催概要

1.1 基本情報【事実】

表 1 開催概要

項目	内容
名称	第 35 回 2026 知財・情報フェア&コンファレンス（2026 Intellectual Property Information Fair & Conference）。2026 年から英語名称を刷新 ^[1]
会期	2026 年 9 月 16 日（水）～18 日（金）10:00～17:00 ^[1,2]
会場	東京ビッグサイト 東 3 ホール ^[1,2]
主催	一般社団法人発明推進協会、一般財団法人日本特許情報機構（Japio）、産経新聞社 ^[1]

項目	内容
後援	経済産業省、特許庁、INPIT、日本商工会議所、日本弁理士会、日本知的財産協会、知的財産研究教育財団、日本ライセンス協会、日本デザイン振興会 ^[1,2]
入場	無料（来場事前登録制）。セミナー聴講も無料 ^[2]
出展規模	国内外 171 社・団体／367 小間（2026 年 7 月 30 日の主催者発表） ^[2,4]
出展者プレゼン	6 会場・全 108 テーマ。前回より 1 会場増設し、主催者は「過去最多」と説明 ^[2]
同時開催展	総合検査機器展、SENSOR EXPO JAPAN、地盤改良フォーラム、計量計測展、FORESTRISE ^[1]

- 171 社・団体／367 小間は開幕前の発表値である。2025 年は開幕前の主催者発表が 152 社・団体^[8]、事後の公式レポートが 158 社・団体／328 小間^[5]だった。2026 年の確定値も、今後の公式レポートで変わる可能性がある。
- 会場住所の表記は、公式サイトが「有明 3-10-1」^[1]、主催者プレスリリースが「有明 3-11-1」^[2]と分かれている。
- 後援には日本デザイン振興会が入っている^[1,2]。2025 年の主催者プレスリリースの後援一覧（確認できた範囲）には同振興会の名前がない^[8]。
- 主催者による公式のオンライン展示は確認できなかった。イーパテント（野崎篤志氏）は会期中の YouTube ライブ 9 本を事前に告知していた^[13]。

1.2 来場者数【事実】

表 2 登録来場者数（公式サイト掲載値）^[1,5]

日程	天候	2026 年	2025 年（同じ会期日）	増減
9 月 16 日（水）	雨	3,959 名	3,754 名	+205
9 月 17 日（木）	晴れ	4,675 名	4,610 名	+65
9 月 18 日（金）	曇り	6,868 名	6,843 名	+25
3 日間累計	—	15,502 名	15,207 名	+295（+1.9%）

【分析】増加分 295 名のうち約 7 割（205 名）は雨天だった初日に集中した。2 日目・3 日目は前回とほぼ同水準である。最終日が全体の約 44%を占める構造は前回と変わらない。

1.3 過去 3 回との比較

表 3 開催規模の推移（各回の公式レポート等）

年（回）	会期	会場	出展者	小間	登録来場者	来場者／小間
2023（第 32 回） ^[7]	9/13～15	東 6	139	245	12,886	52.6
2024（第 33 回） ^[6,9]	10/2～4	西 3・4	141	285	13,032	45.7
2025（第 34 回） ^[5]	9/10～12	西 3・4	158	328	15,207	46.4
2026（第 35 回） ^[1,2]	9/16～18	東 3	171※	367※	15,502	42.2※

※2026 年の出展者数・小間数は開幕前発表値。「来場者／小間」は筆者算出。回次は第 35 回（2026 年）からの逆算。

【分析】2023 年から 2026 年にかけて、出展者は+23%、小間は+50%、来場者は+20%となった。小間の伸びが来場者の伸びを上回り、1 小間あたりの来場者は 52.6 人から 42.2 人へ下がっている。1 出展者あたりの小間数も 1.76 から 2.15 へ増えており、ブースの大型化が進んだ。2025 年から 2026 年に限ると、小間+12%に対して来場者は+1.9%にとどまる。出展側の拡大が来場者の伸びを上回る局面に入ったと読める。

2. 展示の特徴

2.1 出展者の構成【事実】

2026 年の全出展者一覧は公式ポータル（JavaScript で描画）で公開されており、本調査では取得できなかった。表 4 は、出展者プレゼンテーションの実施企業^[13]と各社の公式発表で出展を確認できた範囲に限っている。

表 4 確認できた主な出展者（分類は筆者）

分類	主な出展者
特許 DB・検索・分析	Patsnap ^[21] 、クラリベイト、レクシスネクシス、Questel（サイバーパテント）、Patentfield、VALUENEX、ジー・サーチ、発明通信社、プロパティ、日本パテントデータサービス、アイ・ピー・ファイン ^[25] 、WIPS、PatSeer、エクセルスカウト ^[13]
生成 AI・AI エージェント系	パテント・インテグレーション（サマリヤ） ^[15] 、AI Samurai、Smart-IP（appia-engine）、amplified ai、IP エージェント（Genzo AI）、エムニ、ユアサボ、トランスエス、アイビーリサーチ、テスコ（ATHENOVA）、アクアブラネット（PatVisual）、Patlytics、AIDAO、IPdash、リーガルテック ^[13]
知財管理システム	東芝デジタルソリューションズ ^[24] 、日立製作所、GMO ブランドセキュリティ、アナクア、デンネマイヤー、root ip、ハイパーギア ^[13]

分類	主な出展者
商標・ブランド保護	マークアイ ^[23] 、マークビジョン ^[22] 、IP-RoBo、IP オアシス、Wegofair、RWS グループ ^[13]
翻訳・外国出願	NGB、AI 特許翻訳、RWS グループ ^[13]
調査・事務所・人材	工業所有権協力センター（IPCC）、ASU、アズテック、イーパテント、IPTech 弁理士法人、弁理士法人白坂、スズエ国際特許事務所、HackCamp、知財塾 ^[13]
官庁・公的機関	特許庁、INPIT（J-PlatPat、IP ePlat） ^[3,4] 、発明推進協会、化学情報協会 ^[13]
海外の事務所・ベンダー	米国：Pillsbury、Kim & Stewart、AMPACC、ScienBiziP、Patlytics／韓国：HANOL、WIPS／インド：PatSeer／中国：広州嘉権、北京銀龍、北京セイリン ^[13]

2.2 主な新製品・新機能【事実】

以下は各社の開幕前の発表・告知に基づく。会場での実施状況と製品の性能は個別に確認していない。

- パテント・インテグレーション**：新機能「サマリア MCP」を発表した。ChatGPT や Claude など普段使う生成 AI から、サマリアの特許データベースを直接利用できる。あわせて、拒絶理由通知書 10 万件以上をもとにした類語シソーラス拡張と、明細書作成支援の大型アップデートを行った^[14,16]。会場では操作デモとユーザー実務者の講演を行うと発表した^[15]。
- AI Samurai**：「IP Samurai MCP サーバー」を 7 月 2 日に提供開始した。日本・米国・中国の特許実データを生成 AI から直接参照し、特許調査から知財戦略立案まで 10 業務を支援する^[18]。同社は「通常 8 時間を要する IP ランドスケープ作業を約 30 分で完了した事例」を挙げている^[19]。150 社限定の 2 週間無料トライアル（申込は 10 月 31 日まで）も始めた^[20]。出展者プレゼンでは、トヨタテクニカルディベロップメントとの共同枠に「特許ウォーズ×特許 MCP で知財革新」が組まれた^[13]。
- Patsnap**：Patsnap Analytics と AI エージェント型の「Patsnap Eureka」に加え、MCP による外部 AI 連携と、Agent Skills による AI ワークフロー構築を紹介すると発表した^[21]。
- Smart-IP**：ブースを拡大し、appia-engine の新機能「Offense モード」を出展すると告知した。中間対応向けに「中間対応壁打ち AI」など 3 機能も追加した^[14]。プレゼンの題は「AI は特許を『書く』から『使う』時代へ」^[13]。
- root ip**：知財事務を自動化する AI エージェントと、企業と特許事務所のシステムをつなぐデータ同期を紹介すると告知した。代表者は開発に「12 年かけて」と投稿している^[13,14]。

- **マークビジョン**：ブランド名か URL を入力すると約 90 秒で侵害リスクを表示する無料スキャナー「MarqRadar」をブース 3-J26 で実演すると発表した。類似ドメイン、マーケットプレイス、SNS、有料広告、ウェブサイトの 5 チャンネルを横断し、リスクスコアと削除対応の難易度を示す。対話型の「Brand Intelligence Agent」のライブデモも予定した^[22]。
- **東芝デジタルソリューションズ**：経済的特許価値指標「YK 値」のリアルタイム取得、技術者の暗黙知を AI で抽出するナレッジ DB、ブロックチェーンと VC による発明者実績キャリア証明（参考出展）を出展内容に挙げた^[24]。
- **その他**：マークアイは商標・ドメイン管理「TMODS」の新機能^[23]、アイ・ピー・ファインは「THE 調査力 AI」と知財 DX ラボの取り組み^[25]を出展内容に挙げた。
- **情報を外に出さない型**：トランスエヌ（完全オフラインで動く明細書作成 AI）、アイパクトリ（On-Premise 構築型の発明届出書作成支援）、アイビーリサーチ（特許専用生成 AI+RAG）が、クラウド型と異なる選択肢を演題に掲げた^[13]。
- **AI の信頼性を主題にした発表**：GMO ブランドセキュリティ「その AI に知財情報を入れて大丈夫?」、化学情報協会「検証可能な AI 知財調査」、IPCC「その AI の回答、信じて大丈夫ですか?」、スズエ国際特許事務所「AI の速さ×弁理士の責任」など^[13]。

2.3 出展者プレゼンテーションの傾向（筆者集計）

【事実】チザ D のまとめ（9 月 6 日最終更新）に掲載された出展者プレゼンは 107 枠で、主催者発表の 108 テーマとほぼ一致する^[2,13]。タイトルを目視で分類した結果は次のとおり（概数）。

- タイトルに「AI」「生成 AI」「LLM」「MCP」「エージェント」のいずれかを含むもの：74 枠（約 7 割）。
- 「MCP」を明記したもの：4 枠（トヨタテクニカルディベロップメント／AI Samurai、GMO ブランドセキュリティ、amplified ai、弁理士法人白坂）。「エージェント」を明記したもの：5 枠。
- ユーザー企業が登壇する事例セッション：ワコール、タカラトミー、サントリー×TOPPAN、明治・バンダイ、NEC・旭化成、Cygames、ハウス食品、ダイキン工業。
- 海外勢：英語題のセッション（Patlytics、PatSeer、Pillsbury）と、中国代理事務所による中国実務の解説が 3 枠。

【分析】MCP はタイトル上では 4 枠にとどまるが、各社のプレスリリースと SNS では MCP 対

応の発表が相次いだ^[14,18,21]。MCP は 2026 年の展示を特徴づける技術要素だが、来場者向けの看板は依然として「AI」「生成 AI」である。また、ベンダー自身の製品紹介よりもユーザー企業の導入事例を前面に出すセッションが目立つ。売り込みの重心が機能の説明から導入効果の実証へ移っている。

3. コンファレンス・特別講演の特徴

3.1 プログラム【事実】

表 5 特別講演・フォーラム・コンファレンス^[2,13]

日時	タイトル
9/16（水） 10:30～12:00	JR 東日本が進めるイノベーションと、それを支える知的財産戦略
9/16（水） 13:00～15:00	生成 AI・DX で進化する知財業務 — AI ファースト時代の戦略転換
9/16（水） 15:30～16:30	中小企業の現場で起きている知財のイマ
9/17（木） 10:30～12:00	AI による生産性向上を生かした知財部門の価値向上策とは何か ～本格化するトランスフォーメーションと次世代知財人材像～
9/17（木） 13:00～17:00	知財・情報コンファレンス（国際コンファレンス）
9/18（金） 10:30～12:00	AI 時代の知財・商標実務を考える ～利活用の可能性と信頼性確保の課題～
9/18（金） 13:00～15:00	未来を創る経営戦略 デザインと知財が導く企業価値向上 ～無形資産を横断的かつ戦略的に捉え、経営の中核に据える新たな枠組みとは～

- 国際コンファレンスには、特許庁（JPO）、WIPO、EUIPO、韓国知識財産処（MOIP）、欧州特許庁（EPO）、JETRO などが参加すると主催者は発表している^[2]。各機関の演題と登壇者は確認できていない。
- 有限会社セメントプロデュースデザイン代表取締役の金谷勉氏は、【特別講演②】「技術と意匠を未来につなぐ自社商品開発」に登壇すると同社が告知した^[26]。表 5 のどの枠に当たるかは確認できていない。
- 公式サイトのプログラムは画像と、JavaScript で描画される申込ポータルで公開されている^[12]。このため、各講演の登壇者氏名・肩書は本調査では取得できなかった。

3.2 テーマの傾向【分析】

主催プログラム 7 枠のうち 3 枠が AI を題に掲げる。ただし論点は「AI を使うか否か」ではない。知財部門の価値向上と次世代人材像（9/17 午前）、信頼性の確保（9/18 午前）、戦略転換

(9/16 午後) と、導入を前提にした組織・人材・品質保証の議論へ進んでいる。残る枠は、事業会社の知財戦略 (JR 東日本)、中小企業、国際動向、デザインと知財による企業価値向上である。日本デザイン振興会の後援と合わせて見ると、2024 年の名称変更で掲げた意匠・商標への拡張^[1,11]を、無形資産経営の文脈で具体化しようとする編成と読める。

4. 評判・評価・反響

4.1 確認できたこと【事実】

- 主催者は開幕前から「史上最大規模」「出展数・講演数ともに過去最大規模」と位置づけていた^[2]。来場者数は 3 日間とも前回の同じ会期日を上回った^[1]。
- 9 月 19 日時点で、主催者の総括、Japio の開催報告、業界メディアの事後記事、参加者の事後レポートは確認できていない。
- 開催前から会期中の情報発信は実務家コミュニティが担った。チザ D (知財デジタルイノベーションハブ) はセミナー情報の一覧^[13]と新機能のまとめ^[14]を公開した。イーパテントの野崎篤志氏は YouTube ライブ 9 本と初日夜の懇親企画を告知した^[13]。各社の代表者は X で新機能を発信した^[14]。
- MCP 対応について、弁理士の角淵由英氏は note で、普段から AI を使う実務家にとって意義の大きいアップデートだと評している^[17]。同氏はパテント・インテグレーションの出展者プレゼンの登壇者でもあり^[15]、中立の第三者評価ではない点に留意が要る。
- 参考として、2024 年の取材記事は、AI を組み込んだサービスの出展が一気に加速したことで、結局は使いこなす人のスキルに左右されるという出展者の声を伝えていた^[10]。よろず知財戦略コンサルティングの 2025 年のブログは「AI が知財業務を変えることを示した知財・情報フェア」と題している^[27]。

4.2 想定される評価の論点【分析】

事後の一次評価が出ていないため、以下は展示内容と規模データから導いた仮説である。

- 肯定面：規模は 2023 年以降、毎回拡大している。ユーザー企業の登壇事例が増え、導入判断の材料が得やすくなった。信頼性、情報管理、オンプレミスといった、導入時の懸念に正面から応える発表がそろった。

- 批判面：出展者プレゼンの約 7 割が AI を掲げ、訴求が似通う。来場者には違いが見えにくい。
- 批判面：小間の拡大に来場者の伸びが追いついていない。1 小間あたりの来場者は 2023 年比で約 2 割減った（表 3）。出展の費用対効果を問う声が出展者側から出る可能性がある。
- 批判面：公式プログラムと出展者一覧が画像と JavaScript 描画で公開されており、検索や事後の参照がしにくい。

5. 考察【分析】

5.1 競争軸はツールの画面からデータと接続へ移る

MCP 対応が意味するのは、利用者が使い慣れた汎用生成 AI の側から特許 DB を呼び出せるようになることである。検索・分析ツール固有の画面の価値は相対的に下がる。差別化の源泉は、独自データ（拒絶理由通知の用語対応、審査官統計、裁判例など）、自社・事務所の業務システムとの接続、導入と運用の支援へ移る。エクセルスカウトの「汎用・内製・特化の使い分け」、AIDAO の「内製化」という演題^[13]は、利用者側がすでにこの選択を迫られていることを示している。

5.2 「つなぐ型」と「出さない型」への二極化

クラウド上の汎用 AI に特許 DB をつなぐ型（サマリヤ MCP、IP Samurai MCP サーバー、Patsnap）と、発明情報を社外に出さない型（トランスエヌ、アイパクトリ）が並んだ。未公開の発明情報を扱う工程では後者、公開情報の調査・分析では前者、と工程ごとに使い分ける構成が現実的である。GMO ブランドセキュリティの「その AI に知財情報を入れて大丈夫？」^[13]は、この線引きを社内規程として定める必要を示している。

5.3 知財部門、特許事務所、調査会社への影響

スクリーニング、明細書のドラフト、中間対応の一次案、IP ランドスケープの一次生成は AI へ移る。人に残るのは観点の設計、該否の判断、戦略の立案である。パテント・インテグレーションが観点設計と該否評価を演題にしたこと^[13]は、この移行を裏づける。調査会社と事務所は、定型作業の価値が下がる一方で、責任の所在、品質保証、検証可能性に価値が集まる。IPCC、化学情報協会、スズエ国際特許事務所が AI の限界と責任を前面に出したのは、この変化に沿った位置取りと読める。

5.4 過去 3 回からの変化

- 2024 年：名称を「特許」から「知財」へ変更し、意匠・商標へ対象を拡張^[1,11]。AI 搭載サービスの出展が一気に加速^[10]。
- 2025 年：出展 158 社・団体、来場 15,207 名へ拡大^[5]。主催者は生成 AI、ブランド戦略、無形資産経営を柱に掲げた^[8]。
- 2026 年：AI エージェントと MCP による業務プロセスの接続へ進んだ。論点は導入の可否から、信頼性、人材、経営との統合へ移った。

6. 企業知財部門への提言【分析】

1. **短期（3 か月以内）に PoC を行う。** MCP 対応ツールから 2～3 件を選び、同一の調査課題で比較する。評価軸は、出典の追跡可能性、誤回答の率、自社の管理システムとの接続性、査読とドラフトの工数削減である。ベンダーが示す効果（例：8 時間が 30 分^[19]）は自社の課題で再現できるかを確かめる。
2. **情報区分ごとに利用できる AI を決める。** 未公開の発明情報、公開特許情報、商標・ブランド監視の 3 区分で、クラウド MCP 型とオンプレミス・オフライン型の使い分けを規程にする。
3. **中期（1 年以内）に業務と人材要件を見直す。** AI による一次生成を前提に、人は観点設計、該否判断、戦略立案を担う。特許事務所・調査会社との役割分担と委託仕様（検証の範囲、責任の所在）も改める。
4. **事後情報で判断を更新する。** 主催者の開催報告（来場者属性）、出展者数の確定値、各社の MCP 実運用での不具合・情報漏洩事例が出た時点で、上記の選定と規程を見直す。

7. 情報の限界・未確認事項

- 特別講演・フォーラム・国際コンファレンスの登壇者氏名、肩書、個別の演題は未確認。公式プログラムが画像と JavaScript 描画で公開されているため^[12]。
- 2026 年の全出展者一覧は未取得。新規出展と出展取りやめの企業は特定していない。表 4 は確認できた範囲に限る。
- 出展者数 171、小間数 367 は開幕前の発表値^[2]。確定値は未公表。

- 2.3 節の集計は、9 月 6 日時点の第三者まとめ^[13]に基づく筆者の目視分類で、概数である。当日の変更は反映していない。
- 各社の製品の性能・効果は各社発表による。第三者による検証は確認していない。
- 会期終了翌日のため、事後の評判・評価は乏しい。第 4 章 4.2 と第 5 章・第 6 章は筆者の分析である。

参考文献

URL は 2026 年 9 月 19 日に閲覧または検索結果で確認した。〔未再確認〕は本稿の作成時に再アクセスできていないもの。

- [1] 「2026 知財・情報フェア&コンファレンス」公式サイト（開催概要・来場者数）、産経新聞社ほか。
<https://pifc.jp/2026/>
- [2] 産経新聞社「史上最大規模、国内外 171 企業が集結！『第 35 回 2026 知財・情報フェア&コンファレンス』9 月 16 日、東京ビッグサイトで開幕」PR TIMES、2026 年 7 月 30 日。
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000002094.000022608.html>
- [3] INPIT 「[INPIT] 2026 知財・情報フェア&コンファレンス（9 月 16 日～18 日）に出展します」2026 年 8 月 18 日。
https://www.inpit.go.jp/about/topic/info_20260818.html
- [4] INPIT 「『第 35 回 2026 知財・情報フェア&コンファレンス』に出展」共同通信 PR ワイヤー、2026 年 8 月。
<https://kyodonewsprwire.jp/release/202608043627>
- [5] 「前回レポート」（2025 年実績・出展企業一覧）、2026 知財・情報フェア&コンファレンス公式サイト。
<https://pifc.jp/2026/report.html>
- [6] 「前回レポート」（2024 年実績）、2025 知財・情報フェア&コンファレンス公式サイト。
<https://pifc.jp/2025/report/>
- [7] 「前回レポート」（2023 年実績）、2024 知財・情報フェア&コンファレンス公式サイト。
<https://pifc.jp/2024/report/>
- [8] 産経新聞社「過去最大の 152 社出展『第 34 回 2025 知財・情報フェア&コンファレンス』9 月 10 日、東京ビッグサイトで開幕」PR TIMES、2025 年 8 月 5 日。
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000001963.000022608.html>
- [9] 「【レポート】東京ビッグサイトで開催の『2024 知財・情報フェア&コンファレンス』13000 人以上が来場」展示会と MICE、2024 年 10 月 11 日。
<https://www.eventbiz.net/?p=146051>
- [10] IP Force 取材記事「2024 知財・情報フェア&コンファレンス」2024 年 10 月 8 日。
<https://ipforce.jp/News/ip-news/topic/2024-10-08-7006>
- [11] 日本特許情報機構（Japio）「知財・情報フェア&コンファレンス」。
<https://japio.or.jp/fair/index.html>
- [12] 「コンファレンス&特別講演・フォーラム」2026 知財・情報フェア&コンファレンス公式サイト（プログラムは画像掲載）。
<https://pifc.jp/2026/conference.html>
- [13] 知財デジタルイノベーションハブ（チザ D）「【知財・情報フェア&コンファレンス 2026】セミナー・ブ

- レゼン情報まとめ」Substack、2026 年 7 月 17 日（最終更新 9 月 6 日）。
<https://ipdigitalinnovationhub.substack.com/p/2026>
- [14] 知財デジタルイノベーションハブ（チザ D）「【2026 知財・情報フェア】知財サービス新機能まとめ」posfie、2026 年 9 月 3 日（更新 9 月 9 日）。https://posfie.com/@ip_dih/p/0W2dUoh
- [15] パテント・インテグレーション「パテント・インテグレーション、『2026 知財・情報フェア&コンファレンス』に出展」PR TIMES、2026 年 8 月 20 日。<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000027.000086119.html>
- [16] パテント・インテグレーション「生成 AI で特許業務を効率化する『サマリヤ』、MCP に対応。Claude・ChatGPT・Copilot・Gemini Enterprise からサマリヤデータベースへ直接アクセス可能に」Infoseek ニュース（PR TIMES 転載）、2026 年 9 月。https://news.infoseek.co.jp/article/prtimes_000000029_000086119/
- [17] 角淵由英「生成 AI が特許データベースに直結する意味と意義～サマリヤ MCP 対応～」note、2026 年 8 月。<https://note.com/tsunobuchi/n/n0ba36dada0ac>
- [18] AI Samurai「AI が特許 DB を自由自在に操る時代へ。企業の生産性を圧倒的に高める『知財 AI エージェント』提供開始」PR TIMES、2026 年 7 月 2 日。<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000300.000021559.html>
- [19] AI Samurai「AI エージェントで知財業務はここまで変わる！『IP Samurai MCP サーバー』無料オンラインセミナーを 8 月 3 日に開催！」PR TIMES、2026 年 7 月 17 日。
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000303.000021559.html>
- [20] AI Samurai「【150 社限定】知財 AI エージェント『AI Samurai MCP サーバー』2 週間無料トライアルを開始」Infoseek ニュース（PR TIMES 転載）、2026 年 8 月。
https://news.infoseek.co.jp/article/prtimes_000000305_000021559/
- [21] Patsnap「『第 35 回 2026 知財・情報フェア&コンファレンス』に出展いたします」共同通信 PR ワイヤ、2026 年 9 月 9 日。<https://kyodonewsprwire.jp/release/202609085486>
- [22] MarqVision Inc.「マークビジョン、約 90 秒でブランド侵害リスクを可視化するスキャナー『MarqRadar』を知財・情報フェア 2026 で実演」PR TIMES、2026 年 9 月 9 日。
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000003.000188032.html>
- [23] マークアイ「商標・ドメイン管理システムに新機能 マークアイが 2026 知財・情報フェア&コンファレンスに出展」Infoseek ニュース（PR TIMES 転載）、2026 年 7 月。
https://news.infoseek.co.jp/article/prtimes_000000007_000082562/
- [24] 東芝デジタルソリューションズ「2026 知財・情報フェア&コンファレンス」イベント情報。
<https://www.global.toshiba/jp/company/digitalsolution/event/2026/0916-0918.html>
- [25] アイ・ビー・ファイン「2026 知財・情報フェア&コンファレンスへ出展します」2026 年 7 月 8 日。
<https://ipfine.jp/event-seminar/2026%E7%9F%A5%E8%B2%A1%E3%83%BB%E6%83%85%E5%A0%B1%E3%83%95%E3%82%A7%E3%82%A2%E3%82%BC%E3%82%B3%E3%83%B3%E3%83%95%E3%82%A1%E3%83%AC%E3%83%B3%E3%82%B9%E3%81%B8%E5%87%BA%E5%B1%95%E3%81%97%E3%81%BE/>
- [26] セメントプロデュースデザイン「2026 知財・情報フェア&コンファレンスに金谷が登壇します！」2026 年 9 月。<https://www.cementdesign.com/event/2026chizai-seminar/>
- [27] 萬秀憲「AI が知財業務を変えることを示した知財・情報フェア」よろず知財戦略コンサルティングブログ、2025 年 9 月 14 日。〔未再確認〕<https://yoroziupsc.com/blog/ai9639613>